



出発を待つばかりの3台のハチ公号

マイカーの普及率は年々上昇し、今や一世帯につき1・8台にまで達しています。それに伴い、バス利用者は減少してきています。4月1日からは、別所方面や本宮方面などの、一部の生活バス路線が廃止されました。

このような中で、生活バス路線とは趣を異にしているのが「ハチ公号」。「どこまでのもつても150円。どこからのつても150円。」をキャッチフレーズに、今日も市内を循環しています。皆さんは、もう乗ってみましたか？

### ハチ公号誕生

平成10年(1998)年8月18日、企業単独では全国で初めて市内循環バスが誕生しました。その名も「ハチ公号」。運行当初は、距離に応じて150円〜570円の運賃でしたが、同年12月16日から一律料金に



基本コンセプトが描かれた車体

なりました。

### コースと所用時間

ハチ公号は、一周13・8キロ、所要時間約44分で運行されています。鳳鳴高校を出発し、周回して鳳鳴高校に戻ってくるのですが、バスの車体にも描かれています。おり、「ショッピング」「病医院」「温泉」に行くのが便利のように、コースが設定(次ページの路線図をご覧ください)されています。

また、往路コースと復路コースがあり、バス停はおよそ380m間隔で設置されています。

### 工夫された車内

座席の位置は、お年寄りが座りやすいように低い位置になっています。しかも、乗降口には3カ